日本大学東北高等学校同窓会会報

# 桜 OUDA 朶

NIHON UNIV. TOHOKU DOUSOU
SINCE 1957

第16号

公開に先がけ、卒業生だけに人工芝グランドへの立ち入りが許可された。2018年3月1日 65回卒業式当日

発行日/2018年8月1日
発　行/日本大学東北高等学校同窓会
郡山市田村町徳定字中河原 1
http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com
編　集/日本大学東北高等学校同窓会桜朶編集部

在りし日の3号館

渡り廊下からグランドを望む

本館から3号館への渡り廊下

本館からの渡り廊下　3号館入り口

3号館西側

3号館をハブとした渡り廊下

3号館南（保健室）側

本館（左）、3号館（右）

2017.秋自転車置き場前の銀杏並木

撤去前の自転車置き場、銀杏並木

自転車置き場と銀杏並木の撤去

解体前の3号館東側

解体前の3号館（北側警備員室入り口）

3号館解体工事2018.2.20

3号館解体工事2018.2.22

2018.3.13渡り廊下撤去①

渡り廊下撤去②

渡り廊下撤去③

基礎工事①

基礎工事②

基礎工事③

基礎工事④

基礎工事2018.7.6現在

3号館の解体と渡り廊下が撤去され、新校舎建設に向けて本格的に工事が始まりました。最新工法により基礎工事はほとんど無音・無振動に近いようです。

**●桜朶15号　訂正とお詫び**　表紙の東京オリンピック（2000）⇒（2020）の誤りでした。ここに訂正しお詫び申し上げます。

## 会長あいさつ

日本大学東北高等学校 同窓会会長
16期生　村山　廣嗣

同窓生の皆様、毎日暑い日が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。各支部の総会も終了し、一段落といった所でしょうか。私も支部総会や支部ゴルフコンペ（白河支部・郡山支部）等に出席させていただき、同窓生と楽しい一時を過ごさせて頂き感謝致します。

また、昨年は22期生の還暦同窓会がホテルハマツで開催され、大いに盛り上がりましたことをご報告致します。これを機会に毎年還暦同窓会が開催されますことを願っております。今年60歳の同窓生の皆さんに企画と参加をお願い致します。

母校においては、今年4月より南尊雄先生が学校長に就任されました。南先生よろしくお願い致します。また、日大東北高校グラウンドですが、ご案内の通り3月に人工芝のグラウンドが完成し、現在生徒が体育の授業や部活動に使用しております。2020年の校舎改築に向け、いよいよ工事が始まりました。今後も会報誌でその様子や進捗状況等を同窓生にお伝えして参ります。それに伴い、同窓会館建設に向けた機運が高まって参りました。今後は会館建設実行委員会を設立し、同窓生の皆様からご意見、ご指導を賜りたいと存じます。

今後ともよろしくお願い致します。

## 学校長あいさつ

# 同窓会の皆様へ

### ～日本大学東北高等学校　発展のために～

学校長　南　尊雄

残暑の候、同窓会会員の皆様におかれましては、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より本校の教育活動に対して、物心両面にわたり御支援を賜り衷心より感謝申し上げます。

私は、このたび平成30年4月1日付けで、前校長の松井弘之先生の御定年退職に伴い、本校の校長職を拝命いたしました南　尊雄と申します。昭和53年に千葉県船橋市にあります日本大学習志野高等学校に着任し37年間勤務しました。平成27年4月から教頭として山梨県上野原市にある日本大学明誠高等学校に異動となり、3年間の勤務を経て現在に至っています。前任の習志野高等学校と本校の沿革を見ますと、前身が共に工業高等学校として創設され、時代の変遷に伴って全日制普通課程の高等学校に校名変更した共通の歴史を歩んでいます。

歴史と伝統ある本校の校長として就任できたことは、この上ない名誉なことでありますが、その分大きな責任を感じております。任期期間は教員生活の集大成として全力で本校発展のための学校運営に当たっていく所存であります。

最近のニュースを見ますと、子供社会から大人社会まで殺伐とした人間関係に起因したものが多く報道されています。私は『挨拶と思い遣りの心が人間関係の潤滑油』をモットーに長年生徒と接してきましたが、誰もが相手を思いやる気持ちを持てば、いじめや体罰は学校から無くなると確信しております。『安全で安心な教育環境、明るく楽しい学校』を基本目標に、教職員一丸となって生徒の心に寄り添う教育活動を実践します。

高校生活の出口（卒業）は、専門課程の入り口です。専門課程で学んだ延長線上に原則就職があります。高校3年間は、人生の岐路を決定する大切な期間といえます。本校は『1.忠恕の心、2.自主創造、3.真剣力行』を教育方針の3つの柱として教育活動に携わっています。昨年度は多くの部活動が全国大会で活躍し、卒業後の進路も日本大学工学部を始め各学部学科・国公立大学・他私立大学・各種専門学校へ文武両道を目指しながら進学実績を残しました。

本校創設以来、3万1千余名の有為な同窓生が巣立たれ、政治・経済・産学・教育・文化・スポーツなどに優れた同窓生の活躍が、県内外はもとより国内外で注目されています。

平成30年度の入学生は449名（男子246名・女子203名）で全校生徒数は1308名（男子729名・女子579名）の県内最大規模の高等学校となっています。これも本校の教育活動、同窓生の活躍が地域社会に認知されたからこそと感謝申し上げます。

本校がより“魅力ある学校”になり、多くの中学生から“入学したい学校”と評価されるように頑張っていきたいと考えています。今後とも同窓会の皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後に同窓会の益々のご発展、同窓生各位のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。

# 日本大学東北高等学校 普通科Ⅱコース誕生秘話

第 12 代校長　小山田正宏先生
初代Ⅱコース（特別進学コース）主任

「誕生秘話」とは大変な課題である。しかも30数年前のことであるから年月や人の名は忘れてしまったものも多く、記憶違いもあると思う。ご容赦の上、思い出としてお読みいただければ幸いである。

## ＜山形からの帰り＞

「よし、女子入学と特進を一緒にやろう。」　横井校長が言った。

山形発の「特急やまばと」が栗子峠に差し掛かったころである。私は「はい」と頷いた。しかし、すぐに希望と不安に襲われていた。

## ＜まずは男女共学＞

学校の改革、特に普通科の改革については既に数年前から教職員の間で話題となり、議論も進められていた。さしあたっての課題は男女共学の問題であった。

大学進学率が全国的に上昇し、50%を超えつつあった昭和60年代、福島県の進学率は30数%に低迷していた。本校普通科は日本大学付属の恩恵を受け、既に70%に達していた。そんな折、郡山市内の中学生の母親たちが10名ほど校長室を訪れた。菅野朋重校長の時で、まだ3号館（当時は本館）2階に教員室、校長室があった。

18年間の生活指導部を経て、教務の黒板を背に2年、副主任になったばかりの私も呼ばれ話を聞くことになった。「日本大学の付属高校の利点を女子生徒にも与えてほしい・・・・。」と。菅野校長の男女共学への取り組みはその時からはじまったといえる。

工業科から普通科、そして共学を始めた日大習志野高校への視察など、先進校の視察や情報収集も徐々に進められ、校内での議論も活発化していた。その過程で、進学率向上、特進コース設置の成功例も話題となった。しかし、男子工業高校としての長い歴史、創立後間もなく、女子入学を実施したものの途切れてしまったこともあり、慎重論も多く、実現にはまだ時間を要するように思われた。

## ＜動き出した女子・特進＞

急速に動き出したのは昭和62年4月横井博校長が就任、8月に野球部の甲子園初出場。12月に現本館が竣工し、更なる発展の機会が訪れた年である。

菅野校長が退任される前、郡山駅近くのカウンターだけの小さな店で、私に本校の将来について淡々と話してくれた。新校長が就任してまもなく、本校のこれからのために何をすべきかを聞かれた私はその時の思いや自分の将来像を基に、共学を第一に、次いで特進コースの設置ができるようであればと申し上げた。しかし同時に特進についてはまだまだ情報等が足りないことなども話した。

横井校長はそこで、全教職員に本校の将来についてアンケートを実施、私は特進コースについて徹底して調査するよう命じられた。まず、日本私学研究所に赴き、全国の私学の中で特進コース先進校の実例や問題点の指導をうけた。また、視察校として秋田経法大学附属高校（現ノースアジア大学明桜高校）を訪れることにした。同校は昭和59（1984）年に特進コースを設置、61年に新校舎竣工、62年には3回目の野球部甲子園出場を果たしていた。まだ新幹線はなく、奥羽線の長い旅であったが、須藤徹先生と私は話が弾み楽しい旅であったような思い出がある。

授業を参観、目的、位置付、方法等を聞いた。「東大、花園、甲子園」。あとは東大だけ、と意気込んでいたことを特に記憶している。

その頃広報を担当していたので「付属広報」創刊からの編集会議に出席、持ち回りの会議では各付属高校を訪れ、できるだけの情報を得ていた。標準学力テストの問題検討委員会では受験への取り組みなども聞いた。また、入試説明会等で地域の中学校を訪問、共学や国公立大等への進学に対しての要望等についてまとめて報告した。

## ＜校長の決断＞

女子の教育には不安があったが、学力の底上げができることは確実である。一方、国公立大第1のこの地域で日本大学進学だけで将来性があるだろうか。他の付属高校も独自の道を模索し、歩み始めていた。日大山形は既に、東北大合格者を出していた。

その二つの課題を持って横井校長と私は日大山形高校を訪れた。共学も特進コースも既に実施していた兄弟校の

本館4階のⅡコース専用フロア

教室での授業風景

助言を得るためである。矢田部校長、教頭、教務主任、そして当時特進コースの主任をしていた松本先生（本校十三代校長）方のお話を長時間にわたり伺った。最後に矢田部校長から、「女子と特進を同時に進めたらどうですか。」と助言された。横井校長は頷きながら山形を後にした。冒頭の決断はその直後のことである。

開成山の体育館の南に郡山市の文学館がある。あの建物は三万石の経営する「花かつみ」という茶店であり、横井校長ゆかりの店であった。山形の前後、校長、松崎教頭、鵜川教務主任、原田教務副主任と私は蕎麦を食べながらその茶屋で何度か話し合いを重ねた。慎重にという意見はあったが、2つについても強い反対意見はなかった。アンケート結果も改革や変化を望む声が、特に若い先生方に多かったという。機は熟したというのが校長の判断であったと思われる。

教職員会議が開かれ、長時間議論された。記憶をたどれば、横井校長が議長となり、特に若い先生方を中心に意見を求めた。私は「進歩や変化の急速に進む今、現状維持は後退である。」というようなことを述べた。

女子入学は予想通り、賛成が多数であった。特進コースは難産となり、僅差で賛成が上回った。校長は実施の決断をした。しかし、反対意見の多いままでの船出となった。

### ＜船出までの準備と作業＞

すでに63年を迎えていた。私にとってはそれからが大変であった。その第一が目的の明確化と位置づけによるカリキュラムの編成である。当然ながら女子入学との同時進行のため家庭科を含め、全カリキュラムの改定をしなければならない。そのまとめ役も命じられた。

基本的な考えとしては、「校内の反対や批判を恐れず、思い切ったカリキュラムや指導体制を作らなければ失敗する」というのが私が得た教訓であった。そこで、従来の普通科は日本大学進学コースとし、統一テスト対策を第1に4科目重視とし、34単位。特進コースは国公立大学および日本大学の難関学部（医学部等）の入学を目指すコースとし、5科目のセンター試験対応として38単位、それにプラス数時間の個別指導時間をとることとした。これは各教科主任中心に行われた。

第二に教員室及び教室を本館4階に設置。教員はその担当が校務であり、教務部に属する。その主任は教務部の副主任とし、教務会や校務運営委員会に出席して他の校務との連携を図る。生徒は学習、個別指導が部活動の代わりとなるため、教員も他の部活動の顧問になることができない。当然、部の顧問が不足し不満も出るだろうが、担当教員は数年後入れ替えになり、経験で得たものは将来必ず学校の発展につながるはずだと考えた。

夏休みが終わり、2学期を迎えると間もなく中学校に対する学校説明会が始まる。それまでに学校案内と募集要項を作らなければならない。カリキュラムは大学本部や福島県に届けなければならない。それが第三の課題であった。その時、2つのコースの呼び方としてⅠコース（日本大学進学コース）と、Ⅱコース（特別進学コース）となった。

### ＜担当者みんなが担任＞

担当教員は国語石井、社会渡辺（清）、数学渡邉（弘）、理科柴田、英語阿部（雅）の5名。5教科から1年時の科目に合わせ、しかも困難な長時間の指導、教育研究、受験指導等に耐えうると思われる先生方が選ばれた。そして、担当主任にはここまでやったのだから君がやりなさい、と私が命じられた。最初の担任は柴田先生となった。入学者数は25名であった。担当教員全員が担任のつもりでやろうと話し合った。

2月末ごろから私は血尿が続いていた。検査の結果、腫瘍が見つかり、春休みを待って手術、3週間の入院となってしまった。不安な思いで退院したが、私など不要なほど、柴田担任を中心に無事に船出をしてくれていた。

勉強合宿（小山田先生授業風景）

## Ⅱコース創設 30 周年

### <すべて初めての試み>

たった25名、されど25名。6名の教員。当然、様々な批判や反発もあったが、担当者にはすべてが初めての試みであった。授業を一から見直し、掘り下げるとともに広がりを持たせ、興味深く学ばせる工夫をした。また、自ら受験生になったつもりで予備校に出向いての授業参観や指導方法の研究・研修等もおこなった。

進研学力テスト、河合塾の実力テスト、センター試験、東北大の2次試験過去問などを解き、どう指導するか考えた。読解力は本を読めば・・・・。という指導では済まされないと思った。まずは、教師自身の教科指導力を付けることが第一であった。

5月の連休が終わると、7校時の後に1～2時間の個別指導が始まった。生徒たちは初めは辛そうであったが次第に慣れてきた。夏休みに入ると勉強合宿をおこなった。数年は日本大学の東磐梯寮で2～3泊した覚えがある。学習の仕方や集中力、根気を身に付けるのが初期の目的であった。数年後、東磐梯寮が老朽化のため閉鎖されると、岳温泉、母畑温泉、熱塩温泉、磐梯熱海などの安価な場所を求めて合宿を続けた。予備校等から受験専門の先生を招いて講演指導などをしてもらった。生徒数は2年目14名であったが、3年目以降は40名以上が定着し、受験生も年々増加した。教員も理科や社会は履修科目に応じて、数学、英語は授業時数の増加により、入れ替えや増員がおこなわれた。第1回の卒業生は東北大1名を含む8名が国公立大に合格した。横井校長は退任されていたが、松崎教頭が「期待以上だよ。」と言ってくれた。

私は6年間ののち、本校初めての広報主任に命じられ、渡辺弘幸先生が後を継いだ。

平成30年5月

勉強合宿（食事風景）

勉強合宿（レクリエーション）

日本大学東磐梯寮での勉強合宿集合写真

夜遅くまで実施された「無制限一本勝負！」の特別授業
本館４階教室風景

# 平成29年度　母校の行事

入学式

体育大会

修学旅行

アカシヤ祭

新入生校外オリエンテーション　会津藩校日新館館長　宗像精（ただし）先生の特別講話

卒業式

## 平成29年度 卒業生進路状況（過年度生含む）平成29年度卒業生総数445名　※延べ人数

| 日本大学 | 国公立大学（短期大学含む） | 他私立大学（短期大学含む） | 専門学校 | 就職 |
|---|---|---|---|---|
| 211名 | 36名 | 144名 | 39名 | 4名 |

### ◆ 日本大学

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 法 | 18 | 商 | 16 | 危機管理 | 1 | 生産工 | 11 | 生物資源 | 15 | 専門学校 | 4 |
| 文理 | 18 | 芸術 | 1 | スポーツ科 | 2 | 工 | 70 | 薬 | 1 | | |
| 経済 | 11 | 国際関係 | 15 | 理工 | 25 | 松戸歯 | 1 | 短期大 | 2 | | |

### ◆ 国公立大学

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 北海道教育大学 | 1 | 山形大学 | 2 | 福島大学 | 14 | 茨城県立医療大学 | 1 | 埼玉県立大学 | 1 |
| 北海道大学 | 1 | 山形県米沢女短大 | 1 | 会津大学 | 2 | 筑波大学 | 1 | 千葉大学 | 1 |
| 岩手県立大学 | 1 | 新潟大学 | 2 | 茨城大学 | 1 | 宇都宮大学 | 3 | 信州大学 | 1 |
| 宮城大学 | 1 | 福島県立医科大学 | 3 | | | | | | |

### ◆ 私立大学

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 立教大学 | 1 | 法政大学 | 1 | 駒沢大学 | 1 | 南山大学 | 1 | 東北学院大学 | 3 |
| 東京理科大学 | 4 | 同志社大学 | 2 | 専修大学 | 2 | 北里大学 | 1 | 国際医療福祉大学 | 9 |
| 明治大学 | 2 | 成蹊大学 | 3 | 芝浦工業大学 | 1 | 日本社会事業大学 | 1 | 新潟医療福祉大学 | 5 |
| 中央大学 | 2 | 東洋大学 | 3 | 明治学院大学 | 2 | 神田外語大学 | 1 | 岩手医大学 | 1 |

※詳細は学校HPをご覧下さい。　ほか

# 三世代賞

平成29年度は、写真左から相樂侑加さん、成田美久さん、槌谷隼祐さん、鈴木綾花さん、髙田明花さん、吉田望さんの6名が受賞。受賞者には三世代の名前の入った記念の楯と記念品として置き時計が贈られました。平成28年度までに38名の受賞があり、今回の6名を合わせると計44名の受賞となっています。

※「三世代賞」は、卒業する生徒ご本人・ご父母様・祖父母君様の三世代に亘る母校愛に敬意を表するもので、平成15年度に設けられました。

## 平成29年度 任期満了

[学校長]
**松井　弘之**
平成30年3月31日付
任期期間：平成24年4月1日
～平成30年3月31日

## 平成29年度 退職された先生

[数学・情報]
**大森　宏昭**
平成30年3月31日付
任期期間：平成24年4月1日
～平成30年3月31日

## 平成29年度 異動教員

[数学科]
**篠原　五紀**
平成30年4月1日付けで
豊山高等学校・中学校へ
勤務期間：平成19年4月1日
～平成30年3月31日

[理科]
**髙橋　あずさ**
平成30年4月1日付けで
豊山高等学校・中学校へ
勤務期間：平成19年4月1日
～平成30年3月31日

※敬称略

## 平成29年度 アカシヤ会スポーツ・文化功労賞授与

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 阿部 | 翔太 | 1組 剣道部 | 中津原純也 | 1組 | 体操部 |
| 安藤 | 成海 | 1組 柔道部 | 寺山　愛莉 | 1組 | 体操部 |
| 加藤 | 智也 | 1組 体操部 | 黒田紗也香 | 2組 | 体操部 |
| 金森 | 砂彩 | 1組 体操部 | 田中　界渡 | 7組 | 相撲部 |
| 佐藤 | 弘基 | 1組 硬式テニス部 | 加藤　佑樹 | 7組 | 柔道部 |
| 佐藤 | 皓人 | 1組 陸上競技部 | 遠藤　春希 | 8組 | 硬式テニス部 |
| 鈴木 | 冬乃 | 1組 水泳部 | 遠藤　英晴 | 8組 | 剣道部 |
| 高沢 | 一希 | 1組 陸上競技部 | 玉川　慧 | 9組 | 体操部 |

## 平成29年度 アカシヤ会学業努力賞授与

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 近藤 | 栞 | 2組 | 佐藤 | 響 | 5組 |
| 菅野 | 涼太 | 3組 | 濵津 | 優也 | 5組 |
| 渡邉 | 真浩 | 3組 | 吉田 | 佳史 | 6組 |
| 井戸沼駿介 | | 4組 | 井戸川茉央 | | 10組 |
| 金澤 | 佑香 | 4組 | 望月 | 美咲 | 12組 |

## 初の日本一達成!陸上競技部の佐藤皓人君(西袋中出身)

佐藤君はこの春の体育クラスの卒業生。昨秋10月20日～22日に愛知県名古屋市で開催された「U20日本陸上競技選手権大会男子砲丸投げ」で16m68cmの記録を出して、見事日本一を達成した。この記録は、投てきの指導者であり陸上部の顧問でもある髙橋直之教諭と同じ大会でのものだという。恩師と同じ記録を出せたことに彼は喜びを爆発させた。同時に、指導してくれた顧問に恩返しできたことにほっと胸を撫でおろしたとも語る。

福島県の高校記録(16.87m)保持者でもある彼の高校3年次の目標は17m。瞬発力や筋力がものをいう投てきにおいて、黙々と細身の体を改造し、メンタルはもちろん体全体の力を指先に集中させる技術面でも磨きをかけてきた。だからこそ地元開催の2020東京オリンピックへの想いは人一倍強い。

彼はこの4月から日本大学スポーツ科学部競技スポーツ学科に進学し、これまで全国大会でしのぎを削った選手と同じキャンパスで切磋琢磨できることに心躍らせている。

「福島県国体強化指定選手」としても活躍する佐藤君が見据えていたのは、2年後に迫った「2020東京オリンピック」の夏の舞台だ。　(聞き手:編集部TT)

3年1組　佐藤皓人君(西袋中)インタビュー

陸上競技部顧問　髙橋直之先生と一緒に

株式会社スポーツニッポン新聞社提供

## 平成30年度教育実習生

5月28日(月)～6月16日(土)までの3週間に亘り、母校で平成30年度の教育実習が実施された。今年度の実習生は次の通り。

石井誉広(国語)、常松美里(国語)、佐久間直登(地歴公民)、越田拓斗(地歴公民)、渡邉元気(数学)、渡辺清佳(数学)、金澤洸輝(保健体育)、佐藤亜佑美(保健体育)、中濱美奈佳(保健体育)、石澤雅法(英語)。

実習に参加する前と実際に教壇に立ったときの違いについて感想を伺ったところ、「大学での模擬授業とは比較にならないほど緊張して、準備した内容を十分に伝えられないもどかしさを感じた。」と異口同音に語ってくれた。中には塾等で教えている実習生もいたが、対象が変わると同じ指導法ではうまく伝わらないことや、特に体育の授業では全体を一斉に動かす難しさを実感したそうだ。

それでも、指導教員のアドバイスを受けながら手探りで格闘する中、2週間目からは自分の授業スタイルを確立し、教室や廊下でも親しく生徒たちと交流する実習生の姿が見られた。

卒業して久々に母校に戻り、睡眠時間3～5時間という環境の中で3週間を無事走り終えた彼らの表情はとても晴々としていた。学校での業務が過酷になる中、教育の現場に身を投じようとする彼らの今後益々の活躍を心より期待したい。

## 第25期(昭和53年)卒 普通科2組「あゆみ会」活動報告

嶋 栄吉です。さて、今年のクラス会は皆無の為恩師の小松先生の助言により、40年以上続く「同期の絆の活動」である「あゆみ会」を紹介します。「あゆみ会」は、卒業後の昭和62年に有志11名(代表石部和則氏ら)で組織され、①会員の相互の婚礼のお祝いの余興と、②親の葬儀に花輪を贈る2つの活動を30年にわたって継続しています。

写真は、母校の学生歌:「若い叡智の花ひらくアカシヤ林、常に幸あれ・・」の合唱と組体操の余興(嶋家婚礼)。

来年、恩師小松先生の喜寿と私達の還暦の祝賀会の合同のクラ開催に向けて、郡山在住の同期へ発起人を要請し、開催予定です。

# 大竹秀典氏母校訪問

6月8日（金）午後1時、大竹秀典選手が金子ボクシングジム会長金子健太郎氏と地元後援会会長の上野一夫氏を伴い19年ぶりに母校を訪ね、南尊雄校長、村山廣嗣同窓会会長、髙橋敏行同副会長の歓迎を受けた。

歓談の中で、現在世界ランキング5位となったこと、8月にアメリカで開催予定のタイトルマッチについての報告があった。南校長からは「日本だけでなく世界を舞台に活躍するOBがいらっしゃることは母校の生徒はもちろん、多くの卒業生に希望と勇気を与える快挙なので、ぜひ世界のチャンピオンベルトをもって再び母校を訪ねて下さい。」と激励の言葉があった。

一般にボクシング選手のピークは25～30歳と言われる中、大竹選手は現在37歳と世界最長年齢とのこと。「30を過ぎてもまだ戦える。まだまだ伸びしろがあるということを自分が頑張ることを通じて、世の中のおじさん世代の人に勇気を与えたいですね。」とはにかむ大竹選手。

肉体的にも精神的にも非常にきついスポーツの一つであるのに、大竹選手を惹きつけるボクシングの魅力は何かという質問を投げかけると、「リングに上がる前に計量（55.3kgという体重制限）という自分との闘いがあり、それを越えた者だけがリングで相手と戦うことが許されるという二重のハードルがあるため、それを越えるのは辛いけれど、その分二重の達成感が味わえるのです。だからその味を一度味わってしまうと、なかなかやめられないですね。30を過ぎた自分にしかできないことをやってみたいです。」との答えが返ってきた。

前半よりも中盤から後半のラウンドに強い大竹選手。対戦相手が徐々にパワーダウンしていく中で、体の動きとパンチのキレが鋭くなり、相手を執拗に攻撃できるのが持ち味。3分間のラウンドを同じスタミナ、同じリズムできっちり戦いをこなす大竹選手についたあだ名は「リングの仕事人」。

歓談の途中、在学中度々訪れた保健室の笹森先生（養護教諭）と話す機会があった。自分の高校時代の秘密（?）を知る先生との再会に、タイムスリップしたようだと照れる大竹選手。そんな大竹選手の次の目標は8月にアメリカ アリゾナ州で行われるタイトルマッチ。（詳細は金子ボクシングジムHPにて）世界を見据える大竹選手の目は再び「リングの仕事人」と化していた。

約1時間の後、大竹選手ら一行は郡山市市長表敬訪問のため母校を後にした。

この夏熱い戦いが待っている大竹選手の活躍から目が離せない。頑張れ！大竹選手！！

皆さんの応援よろしくお願いいたします。（編集部）

# 支部だより

## 白河支部総会

平成29年7月22日　於：東京第一ホテル新白河

## 本宮支部総会

平成30年1月20日　於：割烹かわはら

## 郡山支部総会

平成30年2月10日　於：ハイカラヤ郡山あさひ通り店

## 郡山支部主催ゴルフコンペ

平成30年6月4日　於：大玉カントリークラブ

## 受章おめでとうございます

### 藍綬褒章

昭和33年卒 5期生 工業化学科
（担任：神戸徳蔵先生）

**斎藤　正博 氏**

**本宮市出身・在住**
平成29年度秋の褒章で藍綬褒章受章。平成4年からの8期24年間民生児童委員として、社会福祉並び児童福祉の向上の尽力。この間本宮市民生児童委員会会長、安達方部民生児童委員連絡協議会委員会会長、福島県民生児童委員協議会長、全国民生児童委員連合会評議委員などを歴任。特に東日本大震災による被災者、避難者への相談支援活動において、県民児協として県民の民生児童委員が一丸となって取り組んだことが高く評価された。「共にボランティア活動に汗を流した妻に感謝をしたい。」と語る。

### 瑞宝小綬章

昭和34年卒　6期　普通科
（担任：國分欽智先生）

**郡司　正孝 氏**

**郡山市出身・在住**
昨秋の叙勲受章で「瑞宝小綬賞」を受賞した郡司氏は、昭和39年4月から昭和55年3月まで塙高校の教諭として勤務。平成4年4月からは塙工業高校校長を、また平成9年4月から会津工業高校校長を務め、平成13年3月に退職。同年4月から塙町教育長に就任し、平成19年3月まで塙町の教育行政に貢献するとともに、塙町在住時から今春まで、空手の指導を通じて若者の非行防止に尽力した。なお、平成14年4月から平成18年3月までは、日本大学工学部の非常勤講師（教職課程）も兼任した。

### 瑞宝単光章

昭和48年卒　20期　電気科1組
（担任：鵜川丑吉先生）

**佐久間　島明 氏**

**三春町出身（神奈川県横浜市在住）**
相模鉄道に入社し、変電所の保守業務に携わり変電所長並びに電力司令長とし、安全輸送の電力供給の業務を担い、電力の安定供給に尽力した。「この度、殊勲の栄誉を賜り身に余る栄光と感謝を申し上げます。これもひとえに厳しくも暖かく指導して頂いた諸先輩や同僚の皆様方のご支援と家族の支えに深く感謝いたしております。今後も、感謝を忘れることなく、この栄誉に恥じることのないよう一層精進して参ります。」と語る。

**～～編集部より受章者掲載応募のお願い～～**
自薦他薦は問いません。新聞掲載の記事と写真を添えて編集部までお寄せ下さい。過去の受賞者も掲載いたします。

## 第23期生（昭和51年3月卒）の「還暦同期会」開催

昨年の12月3日（日）ホテルハマツ（郡山）で、第23期生の「還暦同期会」が開催された。土木、建築、機械、工業化学、電気1・2組、普通科1組～4組から計37名が参加した。同期生が一堂に会しての還暦同期会は本同窓会史上初めて。来賓として恩師の鈴木守先生、村山廣嗣同窓会会長ら4名がお祝いに駆けつけた。会に先立ち特設会場で還暦のお祓いと祝詞が行われた。その後代表幹事の靄田雅之氏と境田宏氏の司会で会は進行し、歓談の合間一人ずつ近況報告する時間があり、第二の人生の決意を新たにした。最後に全員で校歌を高らかに斉唱し終了となった。

平成29年12月3日　於：ホテルハマツ

## 部活動OB会

### 平成29年度柔友桜会新年会

平成29年1月3日　於：郡山ビューホテルアネックス

### バドミントン部OB・OG大会

平成29年8月11日　於：母校記念体育館

※今年は8月12日（日）午前8時30分より開催、場所は同上。

## 退職教職員の会

5月12日（土）アカシヤ館1階食堂において退職教職員の会定例総会が開催された。小山田正宏会長の挨拶、新校長として赴任した南尊雄校長の挨拶に続き、渡邉弘幸教頭から学校の現況報告を受けた。特に3号館の解体と新校舎建設が本格的に始動したことについての報告を受け、かつて勤務していた学校がいよいよ生まれ変わっていこうとする現場に立ち会い、先生方は感慨深げであった。

1列目左より　山岸利正先生　小山田正宏先生　渡邉弘幸教頭
味川満丸先生　南尊雄校長　阿部雄一先生　故 木口庄寿郎先生
2列目左より　大木進先生　外山公平元課長　猪腰嘉勝先生　太田興亜先生
佐藤光良元課長補佐　塩田正宏先生　藤田里美先生
海老名幸男先生　塩谷郁夫先生　青木文次先生　齊藤栄一先生

## 返信はがき掲載希望コメント

**長久保 宏人氏（電気科:昭和30年3月卒業　現住所:福島県）**
2期生。電気科卒。変り者で、小説を耽読し、進路変更。山形大學で西洋史を専攻。安達、福島女子（現橘）、福島東で世界史を教え保原高（校長）で定年退職した。満81歳。未だ元気。畑150坪、ビニールハウス1棟で野菜をつくっている。コンペも含めて週2回ほどのゴルフ。毎年同級生の福田勤、会田善正、根元泰一君等と白河・那須でゴルフをしている。元兵舎のオンボロ校舎、土足で上がる板張り床の教室、森田先生の英語の授業が殊の他懐かしい。

**榎本 忠氏（建設科:昭和31年3月卒業　現住所:東京都）**
「桜朶」の第15号をお送り頂き有難うございました。2020年東京オリンピック開催の年母校は新校舎に生まれ変わるとの事、大変結構な事です。第3期生の私は当時兵舎をそのまま教室として学んだ日々を今も忘れません。少し薄暗い教室であった様に今も記憶にあります。今後新校舎に入る生徒さん達は誠に幸せな事と思います。それと三世代にわたり日高を愛される方々もおられ、本当に敬意を表するものであります。野球が好きなので、ぜひ母校が8回目の甲子園に出場できる様、心より期待しております。

**長久保 重明氏（電気科:昭和40年3月卒業　現住所:神奈川県）**
私は高校卒業後神奈川県に出ました。10年後位でしょうか。磐梯熱海で行われた同窓会に誘いが有り出席しました。
卒業後担任だった原田元成先生を囲んで、級友との再会を楽しんだ思い出が脳裏に刻まれています。この同窓会は今も続いているのでしょうか?開催されていれば出席したいです。級友の方の連絡を待っています。

**吉田 英夫氏（建築科:昭和45年3月卒業　現住所:福島県）**
卒業してから学校に行っていません。3号館が解体されると聞きました。今年こそは訪問して見たいです。建築科で習った事を仕事として約半世紀続け退職を迎えられる事、うれしく思い、学校に大変感謝しています。ありがとうございました。

●皆さんの近況をお知らせください。
クラス会の呼び掛けや近況報告を会報に掲載することができます。

※会報に掲載を希望する方は、□に✓印をしてください。
□に印がない場合は掲載をいたしません。

□ 掲載希望

※本用紙に記入された個人情報は会報・案内等を送付する際に使用します。
今後継続して、事務局からの案内の送付を希望されない方は、
下記の☑印を付して返送もしくはホームページよりご連絡ください。

□ 会報・案内の送付を希望しない。

日本大学東北高等学校同窓会
http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com

## お悔やみ　心よりご冥福をお祈り申し上げます。

**益永孝元先生**
国語科
平成29年11月4日
享年74歳

平成21年3月に退職された益永孝元先生（国語科）が昨年秋（平成29年11月4日午後7時15分）に逝去された。享年74歳。野球部の部長として数回にわたり甲子園出場を果たし、ライフワークの俳句同人誌『桔槔』の編集にも尽力される。母校の教員を中心とした「どぜう句会」の添削指導も務められた。平成25年に福島県文学賞正賞を受賞。
「桜もみぢ余すところのなき日ざし　孝　元」
※『桔槔』1102号（11月号）私本花歳時記（二六三）より

**木口 庄壽郎先生**
英語科
平成30年6月12日
享年86歳

平成30年6月12日午後4時36分、急性腎不全のため逝去。享年86歳。昭和55年～62年までの8年間教務部主任として、授業第一主義を重視し、基礎補習導入等を通して生徒の学力向上に尽力。細かな入試統計と分析、適格な入学定員の確保にも努力された。東北学院大学出身の阿部雄一先生・遠藤雄三先生・海老名幸男先生の先輩として英語教育に貢献された。

※桜朶 12 号「あの先生はいま」インタビュー記事掲載

## 編集後記

西日本豪雨で被災された方々へ心よりお見舞い申し上げます。

　さて、表紙写真でご覧いただいたように3号館の撤去工事が完了し、新校舎建設が始まりました。去る6月30日の定例役員会の席上、村山会長より母校新校舎完成に向けて全力で後援するとともに、歴代同窓会会長をはじめ多くの会員の願いである同窓会館建設に向けての動きを加速化するため、専門委員会の立ち上げ等多くの方々の協力を仰ぐようお話しがありました。

桜朶編集部は会長直轄の組織として再編成され、今後も母校の様子や会員の皆様の近況、さらに新校舎建設の最新の情報をお届けします。ご期待下さい。

第1回編集会議風景
2017.9.30
〔編集委員〕
村山廣嗣・諸越裕
金澤裕・根本昭吉
小山雅弘・髙橋敏行
宗像忠典・伊東伸泰
小林鉄也

### 《同窓会のHP（ホームページ）について》

同窓会のHPでは、「住所変更」や「お問い合わせ」が可能です。

さらに会報誌「桜朶OUDA」1号～15号のバックナンバーもご覧いただけます。http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com

郵便はがき

料金受取人払
郡山局承認
4237
差出有効期限
2020年7月31日迄
です。切手をはらず
にお出しください。

9631190

郡山市田村町徳定字中河原１

日本大学東北高等学校
同窓会　行

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 現住所 | 〒<br>都道府県 | | | |
| TEL | | 携帯 | | |
| 氏名 | | 生年月日 | | 男・女 |
| 卒業年 | 年3月卒 | ※いずれかに○をつけてください。<br>建設・機械・電気・工業化学<br>普通・土木・建築 | | |

**【個人情報の取り扱いについて】**

1　ご提供いただいております個人情報は以下の目的で使用いたします。

同窓会が本来の目的とした活動をする場合、また必要と思われる作業を進行する際など合法的な目的のために活用する場合。（同窓会会報、総会通知、クラス会通知、支部会通知、周年募金・寄付活動・会費徴収の発送宛名及び各種リスト等）同窓会会員名簿の作成。

上記１の使用に当っては、氏名、フリガナ、郵便番号、現住所、電話番号、勤務先名、勤務先電話番号を利用させていただきます。

2　個人データの第三者提供の制限

ご提供いただいております個人情報の内容は、本人の承諾なしに学校、同窓会関係者以外の第三者に開示、提供することはありません。ただし、以下のような場合は、例外として情報を開示できるものといたします。

法令の規定による場合

ご本人及び公衆の生命、健康、財産等の重大な利益を保護するために必要な場合

3　個人情報管理について

ご提供いただいております個人情報はデータ処理等の業務委託をお願いしております業者において機密保持に万全を尽くすことの確約を得ております。

4　個人情報の開示・訂正・削除について

個人情報は原則として本人に限り、開示・訂正・削除・利用の停止を求めることができます。

個人情報の取扱に関する件で何か申し出がある場合は、同窓会（日本大学東北高等学校同窓会（アカシア会）へ左記のハガキ、もしくは下記ホームページよりご連絡ください。

ハガキでの返信もしくはホームページへの返信のなき場合には、承諾していただけたものとさせていただきます。ご了承いただけますようお願いいたします。

**お問い合わせ**

**日本大学東北高等学校同窓会**
郡山市田村町徳定字中河原１
http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com

桜朶 第16号
■発行日：2018年8月1日　http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com
■発　行：日本大学東北高等学校 同窓会　郡山市田村町徳定字中河原１
■編　集：日本大学東北高等学校 同窓会 桜朶編集部